



契 約 書

平成30年度裁判所職員採用試験広報用パンフレット及び同ポスターの企画（以下「業務」という。）に関し、発注者最高裁判所（以下「発注者」という。）と受注者株式会社アドップ（以下「受注者」という。）とは、次の条項及び別紙仕様書（以下「仕様書」という。）により請負契約を締結し、信義に従い誠実にこれを履行するものとする。

（業務の名称、品名及び規格等）

第1条 業務の名称、品名、規格及び請負金額は次のとおりとする。

- (1) 名 称 平成30年度裁判所職員採用試験広報用パンフレット及び同ポスターの企画
- (2) 品名及び規格 仕様書のとおり
- (3) 請 負 金 額 金2,786,400円
(うち消費税及び地方消費税額 金206,400円)

（納入期限及び納入場所）

第2条 成果物の納入期限及び納入場所は次のとおりとする。

- (1) 納入期限 平成29年9月20日
- (2) 納入場所 東京都千代田区隼町4番2号 最高裁判所

（契約保証金）

第3条 受注者は、契約保証金の納付を要しないものとする。

（業務内容等）

第4条 受注者は、この契約の条項に基づいて、仕様書に従った業務を行う。

（権利譲渡の禁止）

第5条 受注者は、この契約によって生ずる権利又は義務の全部若しくは一部を発注者の承諾を得た場合を除き第三者に譲渡し、又は承継させてはならない。ただし、信用保証協会及び中小企業信用保険法施行令（昭和25年政令第350号）第1条の3に規定する金融機関に対して売掛債権を譲渡する場合にあっては、この限りでない。

- 2 前項ただし書に基づいて売掛債権の譲渡を行った場合、発注者の対価の支払による弁済の効力は、発注者が予算決算及び会計令（昭和22年勅令第165号）第42条の2に基づき、センター支出官に対して支出の決定の通知を行った時点で生ずるものとする。

（下請等の制限）

第6条 受注者は、業務の全部を第三者に委託し、又は請け負わせてはならない。ただし、業務の一部を第三者に委託し、又は請け負わせることについて、書面による発注者の承諾を受けた場合は、この限りでない。この場合、下請負人の名称その他の必要な事項を発注者に通知しなければならない。

（業務の監督等）

第7条 発注者は、受注者の業務につき必要な監督を行うため、監督職員を定めて業務の工程の立会い、指示、承諾又は協議を行わせることができる。

- 2 受注者は、仕様書に基づく使用材料及び工程表を発注者に提供して、その承諾を受け

るものとし、仕様書に明示のない事項については、発注者の指示を受けなければならない。

(検査及び納入)

第8条 受注者は、成果物の納入の準備が完了した場合には、書面によりその旨を発注者に通知しなければならない。

- 2 発注者は、前項の通知を受理した場合には、その受理した日から起算して10日以内に、発注者の定めた検査職員に必要な検査を完了させ、その結果を受注者に通知するとともに、検査に合格したときは、遅滞なく成果物の引渡しを受けなければならない。
- 3 受注者は前項の検査に合格しなかった旨の通知を受理した場合には、発注者の指示に従い、遅滞なく成果物の取替え、補修その他必要な措置を講じ、速やかに再度の検査を受けなければならない。この場合における検査の完了の時期は、発注者が新たに成果物の納入の準備が完了した旨の通知を受理した日から起算して10日以内とする。
- 4 発注者及び受注者の協議により、成果物を分割して納入する場合には、その都度、前各項に準じた取扱いをするものとする。
- 5 検査に要する費用は、受注者の負担とする。

(代金の支払)

第9条 受注者は、前条第2項又は第3項の検査に合格した旨の通知を受理した場合には、遅滞なく代金の支払請求書を発注者に提出するものとする。

- 2 発注者は、前項の支払請求書を受理した日から起算して30日（以下「約定期間」という。）以内に、受注者の指定する銀行口座に振り込む方法により支払うものとする。
- 3 受注者は、発注者及び受注者の協議により成果物を分割して引き渡した場合において発注者の承諾があるときは、その引き渡した部分に対する代金の支払を発注者に請求することができるものとし、この場合においては、前二項に準じた取扱いをするものとする。

(履行遅延の賠償)

第10条 発注者は、約定期間内に代金の支払をしなかった場合には、遅延損害金を受注者に支払わなければならない。

- 2 受注者は、その責めに帰すべき事由により成果物の納入を遅滞した場合には、遅延損害金を発注者に支払わなければならない。
- 3 前二項の遅延損害金は、第1項の場合においては支払が遅延した金額に対し、遅延日数に応じ政府契約の支払遅延防止等に関する法律（昭和24年法律第256号）第8条第1項の規定に基づき財務大臣が決定する遅延利息の率（ただし、率適用は財務省告示の施行日による。）の割合で、前項の場合においては納入が遅延した部分についての代価に対し、遅延日数に応じ年5.0パーセントの割合で、それぞれ計算した額とする。ただし、その額に100円未満の端数がある場合は、これを切り捨て、その額が100円未満である場合は、その支払を要しないものとする。

(検査の遅延)

第11条 発注者がその責めに帰すべき事由により、第8条第2項又は第3項に規定する

期間内に検査を完了しなかった場合には、その期間を経過した日から検査を完了した日までの日数（以下「遅延期間」という。）を、約定期間から差し引くものとする。この場合において、遅延期間が約定期間の日数を超えるときは、約定期間は満了したものとし、発注者は、その超える日数に応じ、前条第1項及び第3項に規定する遅延損害金を受注者に支払うものとする。

（危険負担等）

第12条 業務の履行に伴い生じた損害は、発注者の責めに帰すべき事由により生じた場合を除き、受注者の負担とする。

2 天災その他の不可抗力により、債務の履行が不能となった場合には、発注者又は受注者は、相手方の同意を得て、この契約を無償で解除できるものとし、既に要した費用については、発注者及び受注者の各自の負担とする。

（瑕疵担保責任）

第13条 発注者は、成果物に隠れた瑕疵を発見したときは、受注者に対して相当の期間を定めて、受注者の費用で取替え、補修その他の措置を講じ、又は損害の賠償を請求することができる。この場合における担保の期間は、第8条第2項又は第3項の規定に基づき納入を受けたときから1年とする。

2 受注者が前項の期日までに、取替え、補修その他必要な措置を講じないときは、発注者は、受注者の負担において第三者にこれをさせることができる。

（秘密の保持）

第14条 発注者及び受注者並びにその職員、代理人及び使用人は、この業務の遂行に際し知り得た相手方の秘密を他に漏らし、又は他の目的に使用してはならない。

（発注者の契約解除権）

第15条 発注者は、受注者（その代理人及び使用人を含む。）が次の各号のいずれかに該当する場合には、この契約を解除することができる。

- (1) この契約の条項又は仕様書に違反した場合
- (2) 監督職員の監督若しくは検査職員の検査を妨げ、又は妨げようとした場合
- (3) 詐欺その他の不正行為をし、又はしようとした場合
- (4) その他この契約の目的を達することができないと認められる場合

2 前項の規定による契約の解除に伴う必要な費用は、受注者の負担とする。

3 発注者は、第1項の規定により契約を解除した場合において、業務の既済部分で検査に合格したものがあるときは、これに相当する代金を受注者に支払うものとする。

（受注者の契約解除権）

第16条 受注者は、発注者がこの契約の条項若しくは仕様書に違反し、又は著しくこれと異なる指示をしたため、業務を遂行することが不能となった場合には、この契約を解除することができる。

2 前項の規定による契約の解除に伴う必要な費用は、発注者の負担とする。

3 受注者が第1項の規定により契約を解除した場合において、業務の既済部分で検査に合格したものがあるときは、発注者は、これに相当する代金を受注者に支払わなければ

ならない。

(違約金)

第17条 前二条の規定により契約が解除された場合には、受注者又は発注者は、違約金として納入期限内に納入して検査に合格した成果物の代金の10分の1に相当する金額を発注者又は受注者の指定する期限内に支払わなければならない。

(談合等の不正行為にかかる違約金)

第18条 受注者は、この契約に関し、次の各号のいずれかに該当する場合には、発注者の請求に基づき、請負金額の10分の1に相当する額を違約金として発注者の指定する期限内に支払わなければならない。

- (1) 受注者が私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第54号。以下「独占禁止法」という。）第3条の規定に違反し、又は受注者が構成事業者である事業者団体が独占禁止法第8条第1号の規定に違反したことにより、公正取引委員会が受注者に対し、独占禁止法第7条の2第1項（独占禁止法第8条の3において読み替えて準用する場合を含む。）の規定に基づく課徴金納付命令（以下「納付命令」という。）を行い、当該納付命令が確定したとき（同委員会が、受注者に対して、独占禁止法第7条の2第18項又は第21項の規定による課徴金の納付を命じない旨の通知を行い、又は確定した当該納付命令を独占禁止法第63条第2項の規定により取り消した場合を含む。）。
- (2) 納付命令又は独占禁止法第7条若しくは第8条の2の規定による排除措置命令（これらの命令が受注者又は受注者が構成事業者である事業者団体（以下「受注者等」という。）に対して行われたときは、受注者等に対する命令で確定したものをいい、受注者等に対して行われていないときは、各名宛人に対する命令すべてが確定した場合における当該命令をいう。次号において「納付命令又は排除措置命令」という。）において、この契約に関し、独占禁止法第3条又は第8条第1号の規定に違反する行為の実行としての事業活動があったとされたとき。ただし、受注者が独占禁止法第19条の規定に違反した場合であって当該違反行為が独占禁止法第2条第9項の規定に基づく不公正な取引方法（昭和57年公正取引委員会告示第15号）第6項に規定する不当廉売の場合など発注者に金銭的損害が生じない行為として、受注者がこれを証明し、その証明を発注者が認めたときはこの限りでない。
- (3) 納付命令又は排除措置命令により、受注者等に独占禁止法第3条又は第8条第1号の規定に違反する行為があったとされた期間及び当該違反する行為の対象となった取引分野が示された場合において、この契約が、当該期間（これらの命令に係る事件について、公正取引委員会が受注者に対し納付命令を行い、これが確定したときは、当該納付命令における課徴金の計算の基礎である当該違反する行為の実行期間を除く。）に入札（見積書の提出を含む。）が行われたものであり、かつ、当該取引分野に該当するものであるとき。
- (4) 受注者又は受注者の代理人の刑法第96条の6又は独占禁止法第89条第1項若しくは第95条第1項第1号に規定する刑が確定したとき。

2 受注者は、前項第4号に規定する場合に該当し、かつ、次の各号のいずれかに該当する場合には、前項の請負金額の10分の1に相当する額のほか、請負金額の100分の5に相当する額を違約金として発注者の指定する期限内に支払わなければならない。

- (1) 前項第2号に規定する確定した納付命令について、独占禁止法第7条の2第7項、第8項又は第9項の規定の適用があるとき。
- (2) 前項第4号に規定する刑に係る確定判決において、受注者又は受注者の代理人（受注者が法人にあっては、その役員又は使用人を含む。）が違反行為の首謀者であることが明らかになったとき。
- (3) 受注者が発注者に対し、独占禁止法に抵触する行為をしていない旨の誓約書を提出しているとき。

3 受注者は、契約の履行を理由として、前二項の違約金を免れることができない。

4 第1項及び第2項の規定は、発注者に生じた実際の損害の額が違約金の額を超過する場合において発注者がその超過分の損害につき賠償を請求することを妨げない。

（談合等の不正行為にかかる発注者の契約解除及び違約金に関する遅延利息）

第19条 受注者が前条の違約金を発注者の指定する期限内に支払わないときは、発注者は何らの通知催告を要せずこの契約の全部又は一部を解除することができるものとし、受注者は当該期限を経過した日から支払をする日までの日数に応じ、年5.0パーセントの割合で計算した額の遅延利息を発注者に支払わなければならない。

（属性要件に基づく契約解除）

第20条 発注者は、受注者が次の各号の一に該当すると認めるときは、何らの催告を要せず、本契約を解除することができる。

- (1) 法人等（個人、法人又は団体をいう。）の役員等（個人である場合はその者、法人である場合は役員又は支店若しくは営業所（常時契約を締結する事務所をいう。）の代表者、団体である場合は代表者、理事等、その他経営に実質的に関与している者をいう。以下同じ。）が、暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ。）又は暴力団員等（同法第2条第6号に規定する暴力団員又は第32条第1項第2号ないし第4号に規定する者及び団体をいう。以下同じ。）であるとき。
- (2) 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的、又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員等を利用するなどしているとき。
- (3) 役員等が、暴力団又は暴力団員等に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与しているとき。ただし、法令により取引を義務付けられている場合を除く。
- (4) 役員等が、暴力団又は暴力団員等であることを知りながらこれを利用するなどしているとき。
- (5) 役員等が、暴力団又は暴力団員等と社会的に非難されるべき関係を有しているとき。

（行為要件に基づく契約解除）

第21条 発注者は、受注者が自ら又は第三者を利用して次の各号の一に該当する行為を

した場合は、何らの催告を要せず、本契約を解除することができる。

- (1) 暴力的な要求行為
- (2) 法的な責任を超えた不当な要求行為
- (3) 取引に関して脅迫的な言動をし、又は暴力を用いる行為
- (4) 偽計又は威力を用いて契約担当官等の業務を妨害する行為
- (5) その他前各号に準ずる行為

(表明確約)

第22条 受注者は、前二条のいずれにも該当しないことを表明し、かつ、将来にわたっても該当しないことを確約する。

- 2 受注者は、前二条各号の一に該当する行為を行った者（以下「解除対象者」という。）を再請負人等（再請負人（再請負が数次にわたるときは、すべての再請負人を含む。）、受任者（再委任以降のすべての受任者を含む。）及び再請負人若しくは受任者が当該契約に関して個別に契約する場合の当該契約の相手方をいう。以下同じ。）としないことを確約する。

(再請負契約等に関する契約解除)

第23条 受注者は、契約後に再請負人等が解除対象者であることが判明したときは、直ちに当該再請負契約人等との契約を解除し、又は再請負人等に対し当該解除対象者に該当する再請負人等との契約を解除させるようにしなければならない。

- 2 発注者は、受注者が再請負人等が解除対象者であることを知りながら契約し、若しくは再請負人等の契約を承認したとき、又は正当な理由がないのに前項の規定に反して当該解除対象者である再請負人等との契約を解除せず、若しくは再請負人等に対し当該解除対象者である再請負人等との契約を解除させるための措置を講じないときは、本契約を解除することができる。

(損害賠償)

第24条 発注者は、第20条、第21条及び前条第2項の規定により本契約を解除した場合は、これにより受注者に生じた損害について、何ら賠償ないし補償することを要しない。

- 2 受注者は、発注者が第20条、第21条及び前条第2項の規定により本契約を解除した場合において、発注者に損害が生じたときは、第17条に定める方法等に従いその損害を賠償するものとする。

(不当要求等に関する通報等)

第25条 受注者は、自ら又は再請負人等が、暴力団又は暴力団員等、社会運動・政治運動標ぼうゴロ等の反社会的勢力から不当要求又は業務妨害等の不当介入（以下「不当要求等」という。）を受けた場合は、これを拒否し、又は再請負人等をして、これを拒否させるとともに、速やかに不当要求等の事実を発注者に報告し、さらに、警察への通報及び捜査上必要な協力を行うものとする。

(財産権、利用権及び製作著作権)

第26条 成果物の財産権、利用権及び複製を含む製作著作権は、発注者に移転する。

2 発注者は、本件著作物を使用し、複製し、改良し、又は第三者に対して使用を承諾する権利を有するものとする。

(紛争の解決)

第27条 この契約書の各条項において発注者及び受注者が協議して定めるものにつき、協議が調わない場合その他この契約に関し発注者及び受注者間で紛争が生じた場合には、発注者及び受注者の協議により選任した者のあつせん又は調停によりその解決を図る。この場合における紛争の処理に要する費用は、発注者及び受注者が協議して特別の定めをしたものを除き各自これを負担する。

(契約の疑義)

第28条 この契約に定めのない事項その他疑義がある場合は、発注者及び受注者が協議して定めるものとする。

この契約の証として、本書2通を作成し、発注者及び受注者が記名押印の上、各自これを保有する。

平成29年6月19日

発注者 東京都千代田区隼町4番2号
最高裁判所
支出負担行為担当官
最高裁判所事務総局経理局長 笠井之彦



受注者 東京都千代田区外神田二丁目17番3号
株式会社アドップ
代表取締役 渡邊和



(別紙)

仕様書

1 件名

平成30年度裁判所職員採用試験広報用パンフレット及び同ポスターの企画

2 規格及び仕様等

(1) パンフレット

A4判で出力可能なもの、左開き38ページ(表紙及び裏表紙を含む。)

レイアウトデザインについては、表紙及び裏表紙は別紙第1、表紙見開きは別紙第2(ただし各ページのサイズはいずれもA4判とする。)に基づくものとし、その他のページについては発注者において用意する写真や原稿を素材として受注者がレイアウトデザインを作成する。

なお、表紙、表紙見開き及び裏表紙について、校正等の段階で、発注者においてキャッチコピーやレイアウト等を修正することがある。

(2) ポスター

B2判及びA3判で出力可能なもの1ページ

レイアウトデザインについては、別紙第3に基づき作成する。

なお、校正等の段階で、発注者においてキャッチコピーやレイアウト等を修正することがある。

おって、試験情報については、試験種別によって発注者側で文字を修正することがある。

3 成果物及び数量

2(1)及び(2)のデザインデータ(eps形式又はai形式。ただし、文字部分のアウトライン化前のものでアウトライン化後のもの両方)を格納したCD-ROM各1枚

なお、2(1)につき、パンフレットの見開きごとのPDF及びPDF化される前の素材(JPEG等)も格納する。

4 成果物の納入期限及び場所

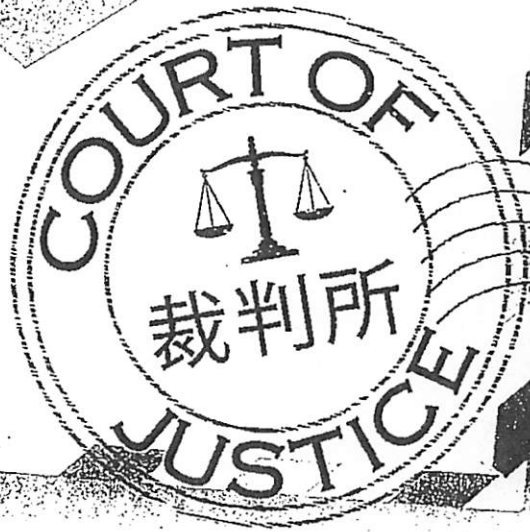
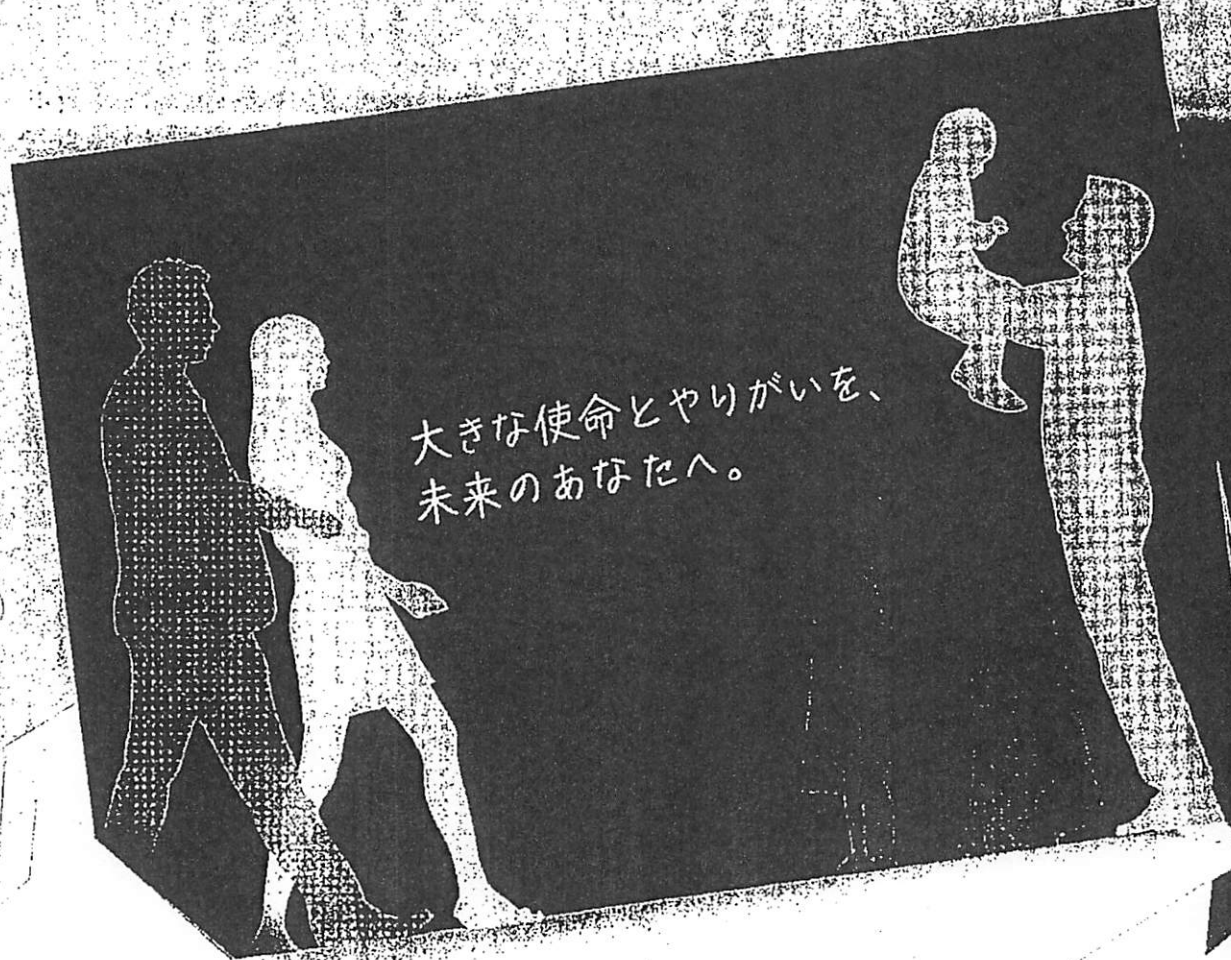
(1) 納入期限 平成29年9月20日(水)

(2) 納入場所 東京都千代田区隼町4番2号 最高裁判所

5 注意事項等

- (1) 原稿作成及び校正等のスケジュールについては、発注者と調整の上、その遵守に努めること。
- (2) 原稿の差替え、追加及び修正等の作業については、発注者の指示に基づき、速やかに対応すること。また、各段階の校正原稿を提出する際には、受注者は、誤字、脱字及び図表等が正しく転載されているかを必ず確認すること。
- (3) 発注者が使用しているOA環境では、文字表示・出力は、基本的に JIS X 0213-2004 の規格によっている。よって、発注者が交付するデータを、受注者が使用する場合には、文字によっては異なる字体で出力されることを前提として取扱い、校正等は書面で行うことを原則とすること。
- (4) 発注者、受注者共に、PDFファイルについては、必ずフォントを埋め込むか画像データで構成するものを使用すること。
- (5) アドビ・イラストレーター等のグラフィック・アプリケーションを使用して作成するファイルについても、アウトライン化やラスターライズ等を行った後に授受をすること。
- (6) 成果物の納入の際には、落丁及び乱丁等がないことを必ず確認すること。
- (7) 本仕様書に記載されていない事項及び本件業務について疑義が生じた場合は、双方で協議する。
- (8) 本件パンフレット及びポスターの著作権については、著作権法27条及び28条に規定する権利を含め、発注者に移転する。また、受注者は、著作者人格権を行使せず、受注者においてキャラクター等の画像データ等を保有する場合には、発注者からの求めに応じて提供するものとする。
- (9) 受注者は、成果物等の発注者に提出する電子データに対して最新のパターンファイルによるウイルスチェックを施すこと。

(別紙第1)



裁判所

(表紙)

(別紙第1)



最高裁判所事務総局人事局

〒102-8651 東京都千代田区隼町4番2号

TEL.03-3264-8111(大代表)

ウェブサイト <http://www.courts.go.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com/saibansho.saiyo/>

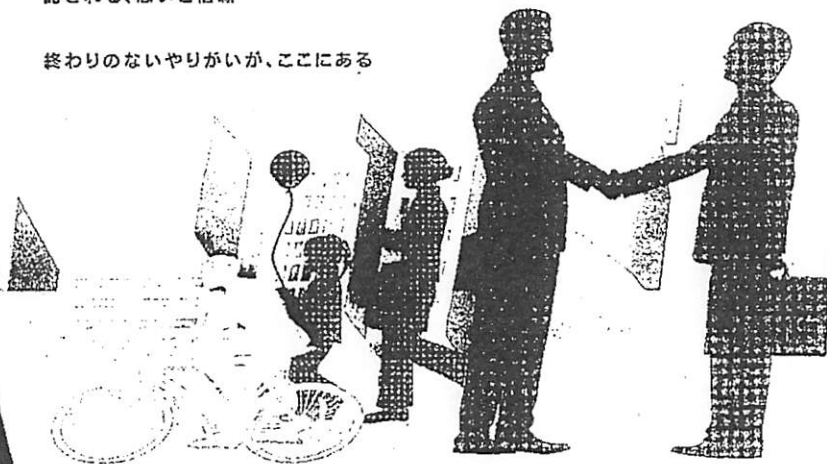
託される、想いと信頼。

三権の一つ「司法」を担っている唯一の組織、裁判所
その使命は、国民ひとりひとりの権利を守り、
日本という国家全体の法秩序を維持すること

その中で裁判所職員は、国民ひとりひとりの「想い」を受けとめ、
司法への確かな「信頼」を支え続けている

託される、想いと信頼

終わりのないやりがいがある、ここにある



CONTENTS

裁判所の組織・キャリアパス	P.01
裁判所で働く。	P.03
司法行政部門で働く。	P.17
裁判所の総合職	P.20
キャリアメッセージ	P.21
対談「裁判所ではたらく女性たち。」	P.23
若手職員インタビュー	P.25
研修・研究制度	P.27
待遇／ワーク・ライフ・バランス	P.31
採用試験	P.32
採用に関するQ&A	P.33
人事担当者からのメッセージ	P.34

MESSAGE

先輩職員からのメッセージ



千葉地方裁判所
事務局長

江川 智津乃

テレビやインターネットで裁判のニュースを目にする
ことも多いのではないのでしょうか。

裁判所に持ち込まれる膨大な数の事件には、生身の人
間一人ひとりの人生があります。

機械的に法を適用するのではなく、一人ひとりの声に
耳を傾け、一人ひとりの人生に真剣に向き合い、公正中
立の立場で事件を解決に導くという使命—この使命を
支えているのは、裁判官だけではありません。

裁判所事務官や裁判所書記官、家庭裁判所調停官など
の熱い思いを持った多くの職員たちによって支えられ
ています。

裁判所を取り巻く情勢は日々変化しています。
司法制度改革の議論があり、裁判員裁判も平成21年
から始まりました。

そのような変化の中で、裁判所が、責務を果たしていく
ために必要なものは何でしょうか。

それは人材です。

裁判所は人によって支えられている組織です。

利用者の目線に立って、熱意をもって仕事に取り組み、
時代の流れに対応できる柔軟な発想力を持っている皆
さんが必要です。

ぜひ、裁判所の門を叩いてみてください。

そして、実際に真剣に取り組んでいる職員の姿を自分
の目で見てください。このような仲間たちと切磋琢磨す
る中で、きっと自分自身の成長を実感することができる
と思います。

司法の今を支え、より良い司法の未来を創るのは、皆
さん自身です。

皆さんと一緒に仕事ができる日を楽しみにしています。

大きな使命とやりがいを、
未来のあなたへ。
託される、想いと信頼。



平成30年度

裁判所職員採用

- ① 裁判所職員採用総合職試験(裁判所事務官 院卒者区分)
- ② 裁判所職員採用総合職試験(裁判所事務官 大卒程度区分)
- ③ 裁判所職員採用総合職試験(家庭裁判所調査官補 院卒者区分)
- ④ 裁判所職員採用総合職試験(家庭裁判所調査官補 大卒程度区分)
- ⑤ 裁判所職員採用一般職試験(裁判所事務官 大卒程度区分)

受験案内は、0月00日(○)から裁判所ウェブサイト(<http://www.courts.go.jp/saiyo/index2.html>)に掲載するとともに、最寄りの裁判所で配布します。裁判所ウェブサイトでは採用試験に関する様々な情報を紹介しています。

受付期間

インターネット

4月0日(○)午前00時00分～
4月0日(○)

郵送

4月0日(○)～4月0日(○)

第1次試験日

0月0日(○)

詳しくは

裁判所職員採用試験 検索

